

令和5年度茅ヶ崎市環境審議会 第2回温暖化対策分科会（WEB会議）会議要旨

日 時： 令和5年8月4日（金）15時00分から16時50分まで

場 所： 茅ヶ崎市役所本庁舎4階 会議室1

出席委員： 大河内委員

（WEB会議により出席）山田分科会長、高祖委員、塩原委員、松枝委員、山本委員

出席職員： 【環境政策課】柳下課長、森課長補佐、松本課長補佐、板坂主査

1 茅ヶ崎市環境基本計画年次報告書（令和5年度版）の評価について

「資料 茅ヶ崎市環境審議会 温暖化対策分科会 事前評価シート」を参考に、温暖化対策分科会が所掌する重点施策のうち、政策目標5の評価を行った。

→主な意見等は次のとおり。（○＝委員、■＝市）

【施策⑪ 学校における環境教育の充実】

- 小中学校を対象に環境教育等の出前授業等がされているが、市の職員が横の連携を取り、また昨年度より実施件数も増えてきていることは、評価できる。
- 出前授業等が非常に重要である。環境教育が非常にいろいろな注目を浴びている中で、積極的に行っている点が非常に良い。
- 事務負担の軽減や、相互に参照参考できるようにするという取り組みの評価などについて、学習機会の創出のもう一つの機能ではないかと考える。
- 特筆すべきものとして、事務負担軽減を図ったこと。もう一つは、環境学習ニュースなどで各校の取り組みを相互に参考にできるようにしていること。課が連携しているということも、良い取り組みである。
- 小中学生がこの環境教育終了後に、実際どのぐらい実施できたのかという点に関して、検証をどのように「見える」化していくのかは課題である。
- 市が横の連携をとって勉強会を開いているが、民間企業でもこういった企業勉強会を開催しているので、少しでも負担の軽減になればと思う。
- 教わる側が先生・講師を評価すること、内容に対しての評価を受け付けてもいいのではないかと。講師のスキルも上がるし、聞く側の気持ちもよく理解できる。一方通行の授業から双方向のものに変えていくのは、課題として良いのではないかと。
- 双方向型の情報のやりとりが、いろんな形で学びにつながっていけば良いので、評価コメントとして残しておきたい。事務局への質問だが、計画の見直しは策定から5年後にすることになっていたと思うが、分科会の作業の中で、施策指標もこまめに見直したほうが良いというコメントを挙げても平気か。
- コメントとしては今後の参考になるものなので、載せていただくことは構わない。実際それを反映させていくかどうかは、中間見直しのタイミングで、議論されるべきところであると思う。
- 双方向型の評価をコメントとして残すと、施策支援の拡充や、幅を広げたほうが良いのではないかとコメントを最後に載せたほうが良いと思う。先ほどの検証の必要性和「見える化」、民間企業の事例、評価を受け付けるなどの双方向型の学びというのを踏まえると、施策指標もそれに合わせた拡充や、幅広の対応を検討する必要があるのではないかと。

【施策⑫ 地域における環境学習機会の拡充】

- 講座や見学会の積極的な開催をしたことは評価できる。
- 各課の横の連携による様々な企画の実施をしたことは評価できる。

- 多様な伝達手段の工夫をしていることは評価できる。
- 活動を通じて学ぶことや、動きとともに理解する・学ぶというところのチャンスをたくさん提供している点は評価できる。
- 今後検討すべき課題について、事務局に対する質問として、環境講座の実施数が計画よりも下回っているが指標の方向性が上向いているのは、なぜか。
- 指標を設定する際に、それが件数とか実績として、高めた方が良いものに関してはその指標の方向性を矢印で表記している。逆に、例えばごみの量、CO2の排出は減らしたほうが良いものであり、それは下向きの矢印をその指標の方向性として、表記しているものである。実績に対して、前年度より、計画値より上だった下だったということを表記している矢印ではない。
- そうであれば、注記をしなければわからないと思う。指標の方向性は、実績や、今後伸ばしていくという意味ではなく、何を意味しているのか書いてほしい。
- 方向性と書かれると、実際の取り組みが伸びているのか、成果が上がっているのかというようにとらえられてしまう。コメントの欄には、年次報告書としての進捗状況評価と、誤解が生じないような説明や整理をした表記が必要である。
- 環境に関する種々の情報に対して、誰でも簡単に質問できる手段の検討について。市のホームページへの質問は、対応するには大変な作業になるかと思うが、民間の専門家の意見を参考にしているかどうか。
- 参加者を増やす努力を引き続きやっていくということが必要である。
- インタラクティブな通信・双方向の対応を検討すべきところである。

#### 【施策②③ 庁内の環境意識の向上】

- 意識向上の取り組みなどの教育機会をきちんと庁内で展開していることは評価できる。
- 職員の派遣をきちんと行って理解につなげている点は評価できる。
- 庁内の環境意識の向上は当然であり、施策とするものではないのではないか。
- 庁内の環境意識の向上は、実際苦慮している部分はある。当たり前の話ではあるが、関係部局が連携して様々取り組みを進めていくことは、本当に重要な部分である。計画上に位置付けてやっていくことに、意義を見出せるよう、きちんとやっていければと思う。
- 市職員が率先して行動するところを見てもらうというか、積極的にそれを公開することによって、市民に必要性や重要性が伝わる可能性もある。単純に意識が上がるということを目指した施策だけにとどまらず、その施策展開の公開がうまく市民に伝わっていけば、より良い循環に繋がるということを期待している人も多い。
- 情報を個人的にとどめるものであったとしても、庁内に共有化をすべきではないか。職員派遣の取り組みについても、難しいが積極的に展開していくことは、検討課題である。
- 充電スタンドの設置は、すべきという要望に近いと思うが、これはすぐ答えられそうなポイントか。
- 電気自動車の導入にあたっては、充電スタンドも増やしていかなければならないところもあり、地域に整備していくということが非常に大切な部分になってくる。公用車を電気自動車に切り換えていくにあたっては、充電スタンドの整備も必然的についてくるので、その辺りは並行して庁舎管理の部局との連携を進めていきたい。
- 環境意識の向上に努める様々な工夫や検討（C-EMSの振り返りも含む）が必要である。

#### 【施策②④ 環境に配慮した活動への支援】

- 今年は、エコ事業者が26社まで伸びた。傾向としてエコ事業者が増えたことは、情報発信の仕方の努力があったと考えられ、評価する。
- 多様な媒体における情報発信と、環境活動への支援は評価できる。
- イベント等に対する講師派遣の実績は評価できる。
- 市民調査員を広く募集するため、タウンニュースに掲載することは、ほとんどの家庭に配られるので、調査員の応募が増えることが期待され、いい活動であると思う。最近市民団体

の自然の観察会や、清掃活動はあまり増えていないので、調査員になっていただく方に対しては、もっと幅広く積極的に参加を募ることが課題である。

○政策目標 5 は、自治体が環境に配慮した行動を実践するまちとして、行っている施策に対する評価のため、温暖化に限定しなくてもよい。

○良い取り組みをしているのに、年次報告書に含まれていないところは、今後の検討課題としてほしい。評価はしているが、情報が伝えられるように、考え直してほしい。

○検討すべき課題の中に、市民調査員の募集などの情報提供は好ましいが、それを実施したと評価の中に加えた方がよい。年次報告書の進捗状況の公開は、より広く情報を集めて公開できるように検討してほしい。

○環境測定器を何台貸し出したのか。

■令和 4 年度実績としては 0 件である。

○環境活動数は減っているが、何か理由や条件説明はあるか。

■令和 4 年度においても、コロナが終息しきっていない部分で、活動件数が減っているのが実情と考えている。

○省エネナビに関しては、10 年以上前の仕様で非常に使いにくいということだが、予算の問題をクリアしていれば、新しい仕様の機器・代替品を入れるなりあるかと思う。去年は 1 件で今年は 0 件の状況で、将来的には中止・終了の決断も排除することなく、一案とした上で、今後の対応を検討したほうが良い。

○エコ事業者を増やすための工夫の一環として、認定された事業者のエコ事業者としての取り組み例をきちんと集めていくべきである。その事例の一つとして、近年採用された、T O T O 茅ヶ崎工場の再生可能エネルギー電力の導入は良い例だと思う。

○コロナ後のグリーンリカバリーには、企業のお金の使い方が大きな問題である。一旦景気が下がり、そのあと C O 2 排出量が下がったが、経済・景気が回復したら C O 2 排出量は上がる。その時に、グリーンリカバリーで、いわゆるエコ設備などの導入をどう支援するか。市にグリーンリカバリーの支援をよろしくお願いしたい。

○コロナ明けの状況から、市民の中にも改めて環境学習や環境イベント等の活動の機運が高まっている可能性があり、費用面も含めた適切なサポートができるように工夫するタイミングにあるのではないか。

○啓発活動の一環として、エコ事業者の取り組み例を把握して公表すると、よい啓発活動に繋がる点は、啓発活動を着実にやっているというところの評価に入れる。

○タウンニュースの広報の件についても、啓発活動の一環の中で、情報把握や情報対応をきちんとしていくということも重要。それから環境測定機器の使いやすい方法の検討。そして市民の活動が活発活性化するタイミングの中で、市としても、お金を含めた応援の検討をした方がよい。

#### 【施策②⑤ 環境に関する情報の発信】

○多様なメディアと適切な情報発信は、評価に値する。

○環境フェアを活用したイベントそのものと、環境フェアにおける様々な工夫は評価できる。

○計画そのものを知ってもらうための公表や、年次報告書の公共施設への配架など、伝達のための工夫ができている点は評価できる。

○令和 4 年度で特徴的なところは、新型コロナウイルス感染症対策を十分とった上で実施した点。今後は、アフターコロナ以降の活動と連動した検討ができるとよい。

○情報を得た方の感想・状況なりをきちんと追えるような工夫をはじめ、循環型の情報提供に変える仕組みを検討してはどうか。

○情報発信の仕方の新しい手段として、動画がある。いろんな動画が外部リンクしていて、小学生や中学生、高校生対応の動画は、効果的な事業の様子が出ている。課題としては、動画を見て質問したくなくても質問ができないので、それに対応できる場があると良い。

○学校等との連携と同じように、自治体の周りの組織や団体企業との連携による情報発信について、外部の機関や団体も連携して行う取り組みの工夫を検討してはどうか。

○LINE アカウントのアクセス数の状況・伸びなどについて。事務局で把握しているか。

■3月からセグメント配信という形で、分野ごとにLINEで登録いただいた方に配信できるような仕組みになった。令和4年度の3月末時点では環境部門の登録者数が838件。7月7日の時点で配信したものにつきましては1891件ということで、環境部門の配信を希望する登録者の方は増えている状況である。

○「環境基本計画こども版」を可能ならば、新入生或いは転入生にはその都度渡せば良い。共通図書として、数冊でも置いてみてはどうか。

○分科会長同士で議論する場があるなら、やって欲しい。分科会の相互の連携は、考えたほうがいい。

○昨日と今日の議論を踏まえ、コロナ対策、カーボンニュートラル、再エネ説明、指標の矢印は不要、それから今意見のあった分科会長同士で議論する点を加え、5点特出し項目があった。これは全体に関わるため、個別の評価ではなく、冒頭に記載する。

## 2 その他

事務局より第2回環境審議会の案内を行った。

日 時 令和5年10月を予定。後日日程調整の連絡。

### ■配付資料

資料 茅ヶ崎市環境審議会 温暖化対策分科会 事前評価シート